

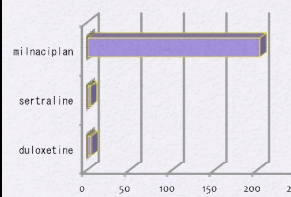
第118回北海道精神神経学会  
平成22年12月5日

# 当院における デュロキセチンの 臨床経験

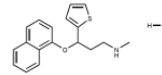
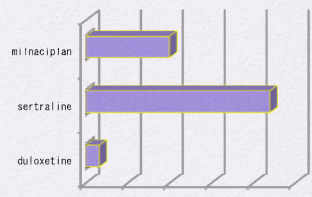
木川昌康, 中島公博, 阿部多樹夫, 富永英俊,  
鈴木健史, 中村由美子, 千丈雅徳 (五稜会病院)

## Duloxetineの薬理学的背景

5-HT reuptake inhibition (Ki:nM)



NA reuptake inhibition (Ki:nM)



N-Methyl-(1-naphthalenyl)-2-thiophenopropanamine hydrochloride  
CAS No[136434-34-9]

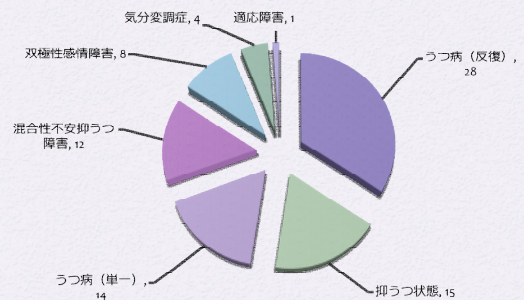
## 当院における実績

- 2010年4月にDLXが本邦でも発売された。当院でも4月に採用され、11月9日までに82例に投与がなされた。

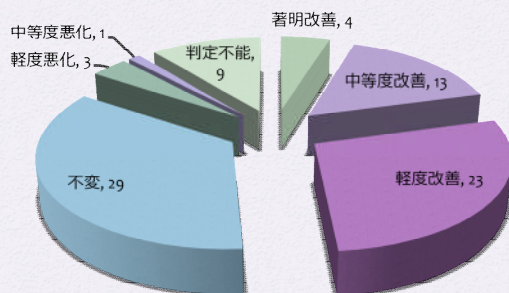
### 【症例の内訳】

- 年齢 平均36.8歳 16~85歳
- 性別 男19例 女63例
- 82例のうち、
  - 内服継続：53例
  - 中止：12例
  - 中断：17例

## 投与症例の疾患分類

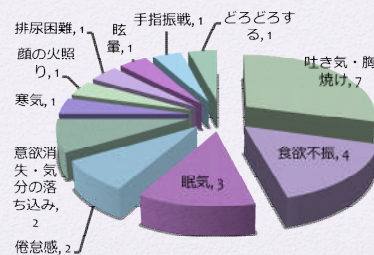


## DLXによる病状改善効果



## DLXによる副作用

- 22例においてDLXとの因果関係を否定できない副作用が生じた。



## 症例1 (52歳男性うつ病)

【生活歴】N大学化学科卒業，既婚，妻と長男の3人暮らし，妻は不安障害にて他のクリニック通院中，現在は無職。

【現病歴】X-12年，仕事による抑うつ気分あり，A県のクリニックへ通院．Paroxetine 20mg処方され軽快している。

X-2年，仕事でのpresentation中に手足が震え，声が出なくなったりした．次第に動悸，下痢などの症状も出現し，出勤が辛くなった。

X-1年2月，近医内科受診し，paroxetine 20mg処方された．同年5月頃より，趣味も全く楽しめなくなった．抑うつ状態悪化し，同年10月で退職．同月に当院外来初診となる。

## 症例2

【初診時】活気に欠け，抑うつ気分強い．やる気が出ない．Paroxetine 20→30mgへ増量．その後，外来にて薬物療法・精神療法を継続した．しかしながら，抑うつ気分，特に，気分の落ち込み，億劫さが改善せず，paroxetine 40mg, milnacipran 100mgまで使用するが十分な改善は得られなかった。

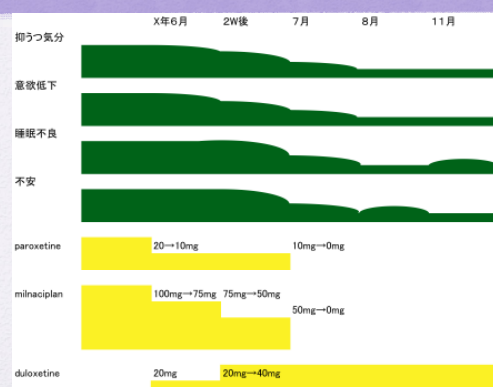
【DLX開始】X年6月，抑うつ気分の改善とmilnacipran+paroxetineからの置換目的でDLX 20mgより内服開始した．DLX開始より2W後の外来では，睡眠改善し，抑うつ気分，意欲も改善した．このため同日よりDLXを40mgへ増量した．その後，paroxetine, milnacipranを漸減中止した。

## 症例3

- X年8月，食欲改善，不安も改善し，不安時頓用 etizolamの回数も減少．Etizolam処方中止とした。
- X年11月，睡眠が不安定だが，様々なことに興味が出てきた．更に，以前は毎日飲酒していたが，週2回くらいの飲酒でおさまるようになった。

- 【副作用】特になし
- 【現処方】DLX 40mg 分1 朝食後
- trazodone 50mg 分1 vds
- zolpidem 10mg 分1 vds
- brotizolam 0.25mg 不眠時頓用

## 経過図



## 考察

- 約半数例で改善効果が得られており，臨床的に有用な抗うつ薬であると考えられる。
- 難治例に対しても，意欲面での向上が期待される。
- 副作用としては，上部消化器症状が最も多く，樋口らの報告（樋口輝彦ら：臨床精神薬理2009, 12(7)1613）と同様である。
- 副作用が生じた症例においても，対症療法的薬剤の追加，あるいはduloxetineの中止により副作用は軽快しており，安全性は高かった。

## まとめ

- 平成22年4月より11月までに当院でDLX投与を82症例において経験した。
- 今後も経験症例の積み重ねに努力していきたい。